「白門」に学ぶ 外国人留学生

韓国 パク・ソンイルさん

＝経済学部2年

ハイキング部に所属

パクさんは、ハイキング部に所属している。ハイキングといっても軽い山歩きではなく、本格的な登山を行っている。合宿には必ずといっていいほど参加するパクさんは、ロープの使い方など高い登山技術を持っているというのが仲間の評価だ。

なぜ、ハイキング部へ、と聞くと、「山の中で育ったから」と言って笑った。故郷は韓国第二の都市、釜山から車で1時間半ほど行った蔚山（ウルサン）から、さらに山間部に入ったウルジュグン。山々に囲まれたなかで生活を送り、登山は日常生活の一部でもあった。

笑顔で話す日本語は完璧だ

自然にアウトドアに興味を持ち、大学では本格的な登山活動をしているハイキング部に入った。

「ただ日本の山を登るだけじゃなく、合宿で山に登った後はみんなでキャンプファイヤーをやったりするのが楽しい。また、休日にはみんなでいろいろな遊びの計画を立てるので、登山以外でも面白い」と充実したサークル活動を行っている。

1年で日本語をマスター

日本へ留学しようと決意したのは、高校2年の時だった。まったくゼロから日本語と留学試験の勉強をはじめた。毎朝5時に起きて学校に行く前に勉強、学校に行き、授業が終わってからは予備校に通って勉強、帰宅後はご飯を食べる時間も惜しんで夜遅くまで勉強する毎日が続いた。

「1年間で日本語をマスターすることを目標にしていたので、寝る時間は毎日3、4時間くらいしかなかった」。しかも「地元では海外留学する人は少ない」ため、留学体験を学ぶこともできなかった。外国人と接する機会もなく、「留学の勉強を始めてから日本人教師の方と話すまで外国人と話したことはなかった」と当時を振り返る。

厳しい受験勉強を乗り切り、パクさんは見事、留学試験に合格。半年間、日本語学校で勉強したあと2010年に大学を受験し、中央大学経済学部国際経済学科に合格した。

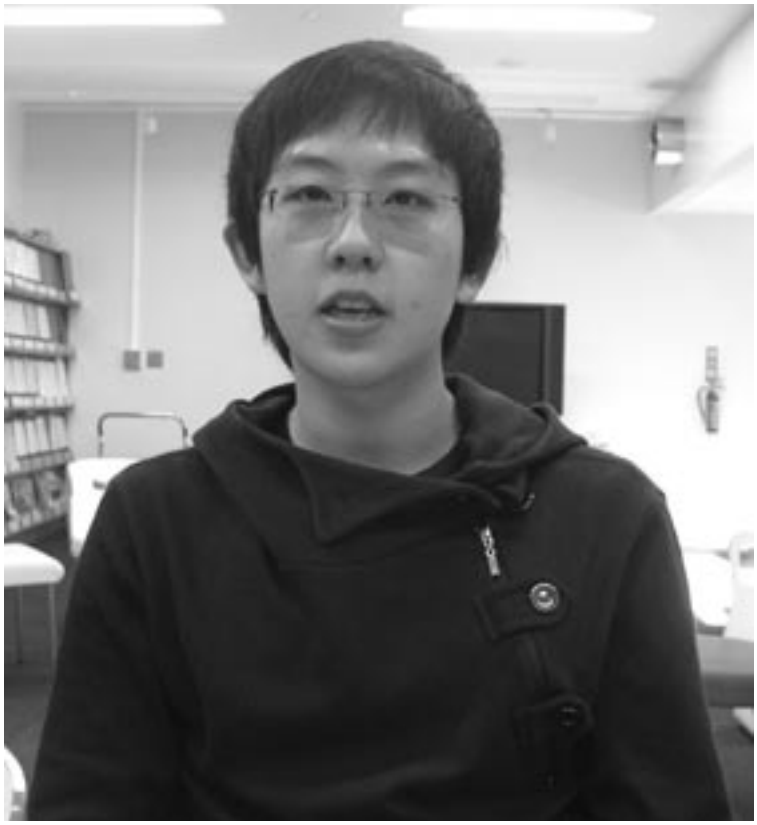
日本での起業を目指す

「日本の学生と話をしたのは、大学に入って1

年生の春のサークルの新勧が初めてでした」という。そんなパクさんは、大学へ入学してからも勉強に対する厳しい姿勢は変わっていない。会計学や国際情勢に関する科目を中心に履修して、あえて難しい講義を選ぶようにしている。

「もし、単位を落としたとしても、難しい講義に挑戦する。そうすればプラスになるし、楽な講義よりも得るものがあると思う」。こう話すパクさんには、「大学を卒業する前に起業して、会社と言えるレベルまで高めたい」という大きな目標がある。

学生企業家向けに開かれたイベントに参加して、ベンチャー企業の社長と出会い、インターンシップの話を持ちかけられたのが大きなきっかけとなった。インターンに採用される条件は、「インターン終了後に起業をすること」だった。



日本での起業を目指すパク・ソンイルさん

大学に入学した当初は、何かを実行したいと考えながらもなかなか行動に移せなかったが、「高校時代に社会構造についての本を読んで経営に興味を持つようになっていた」こともあり、奮い立ってインターンに応募し、起業を目指すことに決めた。

今年の6月から3ヶ月間のインターンだったが、アプリやシステム開発事業を手がけるその会社では、「社会人との人脈をつくることもできたし、日本の会社の雰囲気を体験できた」という。

いま、パクさんは、アルバイトで貯めた資金に加えて両親からの支援も得て、会社設立の準備を着々と進めている。起業するのは、従来とは違うネット販売システムを行う会社で、現在、日本人学生3人と韓国の1人のメンバーとともに目標実現を目指している。

いずれは中国進出も

「自分の国で起業するのではなく、日本で立ち上げるから、大変なことも多い」といいながらも、異国の地での会社立ち上げにチャレンジするパクさんは、さらに10年、20年後の将来も見据えている。

「いずれはビジネスコンサルタントになって、いろいろな会社を立ち上げて成長させたら、中国にも進出したい」と目標は高い。

日本語を学んでからわずか4年。パクさんの人生は大きく間口を広げ、高い希望が開けようとしている。

（学生記者　豊福三晃＝文学部3年）